

取扱いの趣旨

感染根管処置の算定にあたっては、根管内に感染している状況を示す傷病名の記載が適切であることから、「歯髄炎（P u l）」で感染根管処置の算定は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《令和3年2月22日》

106 感染根管処置

○ 取扱い

原則として、「歯髄炎（P u l）」病名で、感染根管処置の算定を認めない。

○ 取扱いを定めた理由

歯髄炎は、細菌感染による歯髄の炎症症状を示しているものの、根管内の感染状況が明らかでないため、算定にあたっては、根管内に感染している状況を示す傷病名の記載が適切である。

グラフの見方

検証不要(少数事例)

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

感染根管処置を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（歯髄炎（P u l））に対して感染根管処置を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、感染根管処置が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

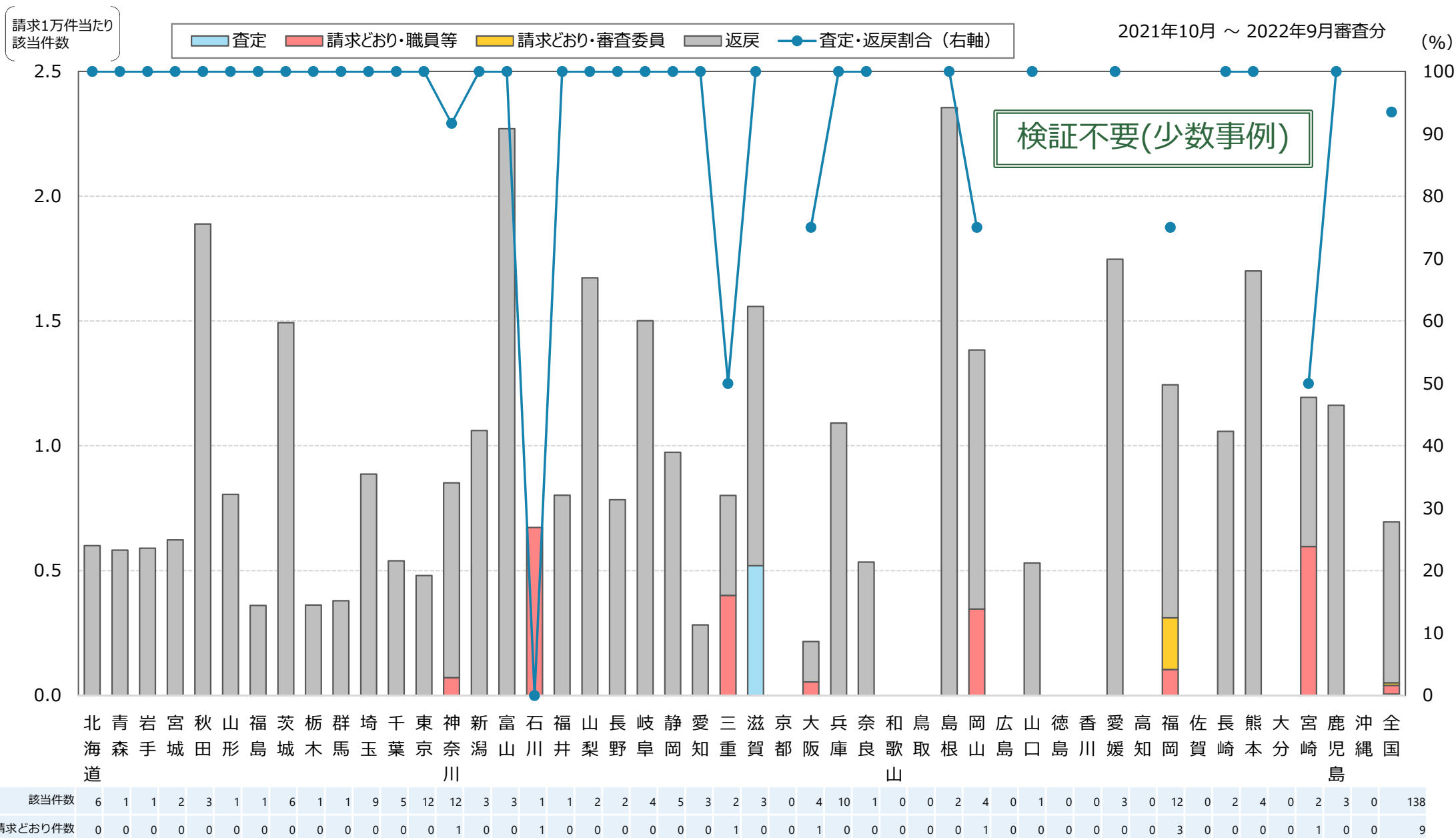
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 93.48%
- 検証を必要とする都道府県 0

検証観点	検証を要する都道府県	備考
査定・返戻割合が低い都道府県		査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員等		対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員		//
該当件数（全国）	歯髄炎（P u l）に対して感染根管処置を算定	138件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	129件
検証を必要とする審査	請求どおり	9件

事例106 「歯髄炎（P u l）」に対する感染根管処置の取扱い

【認めない事例】



【該当件数】 歯髄炎（P u l）に対して感染根管処置を算定しているセプト件数